第３１８回　令和８年１０月２８日（水）

「歴史から見る日本の役割」

人類は２度の世界大戦を経験しています。一度目、二度目とも片方の陣営は独裁を中心とした権威主義の陣営でした。権威主義によって統治されている国は基本的に危機的な状況であった場合が多く見られます。

国が危機的な状況にある時には、救世主として現れたカリスマが国を立て直すというシナリオがとてもよくマッチします。第１次大戦で天文学的な賠償金を請求されたドイツのヒトラーが代表的な例でしょう。

権威主義的な国と民主主義的な国は相性が良くないので場合によって戦争まで発展します。戦前の日本は軍部を中心とした権威主義的な国でした。もちろん現在は選挙が実施される民主主義の国家となっています。

日本の周囲にはロシア、中華人民共和国、朝鮮民主主義人民共和国など、権威主義的な政治システムを展開している国が多くあります。日本はこれらの国と友好的な関係であるとは言えない状態です。

日本国憲法の前文にはこう書かれています。
「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う」
「いずれの国家も自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は普遍的なものであり、この法則に従うことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立とうとする各国の責務であると信ずる」
「日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う」

私は戦争を放棄する憲法９条に勝るとも劣らない、素晴らしい前文だと思います。民主国家であり、敗戦国であり、世界唯一の被爆国である日本こそ世界から戦争をなくし平和を求める先鋒になるべきだと思います。

しかし実際の日本は「他国のことは他国のこと」という不干渉の姿勢が強いような気がします。同盟を結んでいる国や敵対している国に関わらず、平和を乱す行為には毅然と「悪い」といえる国であってほしいと思いますが、そうなってはいないのが現状です。

日和見が得意な国民性であったとしても、次の世界大戦は世界滅亡戦争になります。対岸の火事で済ましてよいわけがありません。